|  |
| --- |
| 広島大学　　　　　　「ＥＳＤ・ユネスコスクールの普及と推進のために」  HP：http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html |

由井　義通

１　ASPUnivNet（ユネスコスクール大学間支援ネットワーク）の一員として

拡大するユネスコスクールのパートナーとしてユネスコスクールの活動を支援するために、2008年に大学間ネットワークであるASPUnivNetが発足した。

広島大学大学院教育学研究科は、2011年にASPUnivNet加盟大学となった。それにあわせてユネスコスクール委員会を設置し、ユネスコスクールやESDに関する活動支援や研究を展開している。今後ますます拡大すると予想されるユネスコスクールへの加盟や学校におけるESDの展開を支援するために、広島大学はどのような貢献ができるのか。本発表では、ESDと関連させたグローバル人材育成をテーマとして、システムシンキング、クリティカルシンキング、ロジカルシンキングなどの多様な思考力を育成することによって、グローバル社会の中で生きていく人材を育てることを目的として、現在の活動とそこに残された課題を整理しながら、ユネスコの今後の活動を展望する。

２　ユネスコスクール委員会の活動

（１）ASPUnivNetの会議や研究会への参加

　　　各地で加盟大学が中心となって実施しているユネスコスクール研修会などについての報告や情報交換を行う連絡会議（年２回）や、ユネスコスクール全国大会（年１回）などに参加することで、ESD・ユネスコスクールに関する資料や情報を収集する。

（２）ユネスコスクール加盟申請支援

広島大学大学院教育学研究科ユネスコスクール委員会では、広島・山口県内の小中高等学校等を対象として、そうしたユネスコスクール加盟申請の支援を行っている。具体的には、加盟を希望する学校が作成した申請書に対して、ユネスコスクールの理念に沿っていること、ESDとして明確で具体的な実践計画が立てられているかどうかということを中心にコメントを付している。

ユネスコスクールはESDを推進する拠点として位置づけられているが、ESDの捉え方や取り組み方は千差万別である。国際理解教育や環境教育などの既存分野からの取り組みが積極的に行われているが、ＥＳＤは全教科で担当し、ESDの質的改善が必要と考える。

（３）ユネスコスクール加盟校への支援

ユネスコスクールに加盟することはゴールではない。加盟後にいかにESDの拠点となるユネスコスクールとして教育実践の質を向上していくかということを試み続け、その省察と改善を続けることが大切である。

そのようなユネスコスクール加盟後の支援のひとつとして、本研究科では、昨年度から講演会や研究会を開催している。そしてそれらを、学校教育現場におけるESDの理解を深めると同時に情報交換を行う場としても位置づけている。

３　今後の展望―つながる・ひろがる・わかちあう―

　（１）ユネスコスクール加盟校への支援

本委員会の活動は緒に就いたばかりであり、現在の最も大きな課題はユネスコスクール加盟校とのつながりを作り、直接的な支援を提供することである。現在は加盟後の活動が全く把握できていない。加盟校の活動を交流する場を設け、そこでの活動報告を受けて活動の実質化と質的向上を図る支援策を検討している。

　　　①ESDとしての単元構成や授業実践など、教育法に関する助言や支援

　　　②ESDとして取り組む具体的なテーマに関する専門的な助言や支援

　　　また、ESDはユネスコスクールだけの問題ではない。加盟校以外の学校ともESDを起点としたつながりを作り出すような情報提供・交換の場としても機能できればよい。

（２）教員養成に資するESDのカリキュラムの充実

　ESDに関する内容を授業に盛り込むよう推奨したり、ESDに関連する授業科目を設けたりすることで、これからの教育を担う学生を、ESDに関する資質・能力を十分に備えた教師として養成していくことが重要である。それは、教育の未来とのつながり作りとして教育学研究科が担う役割のひとつである。養成段階のみならず、教員免許状更新講習等において教師への啓蒙を図り、実力をつけることの支援もしていきたいと考える。

　このように、様々なつながりを糸として教育・授業の改善のひろがりを試み、教育を通してよりよい未来を子どもたちがわかちあえることをめざして日々の活動に励みたい。

（３）ユネスコ・グローバル人材育成のためのコンソーシアムの企画

　グローバル人材育成という教育学研究科の目標と関連したESDコンソーシアムの設立について、大学が代表団体となり、県市町村の教育委員会、ＪＩＣＡ、企業、NPOが構成団体となって、グローバル人材の育成をテーマとしたコンソーシアムを設立する。広島大学が核となってESDに関する研究会・研修会等を企画する。今後、県教委、市町教育委員会、広島県ユネスコ連絡協議会などの関係団体や県内の大学やユネスコスクールと話し合いながら、コンソーシアムの設立趣旨を説明し、協力体制を整備していく必要がある。

　県内各大学での研修会とともに、グローバル人材の育成に関して、問題解決能力・批判的思考・システム思考・代替案を考える思考力(クリティカルシンキング)・国際理解力・協調性などの各種思考力とスキルの育成などをテーマとした教員研修会や教員を目ざす学生を交えた研修会を、県内外各大学や関係諸団体・企業などから講師を選出して開催する。

参考：樋口聡、朝倉淳、柴一実、富川光、由井義通、中井悠加「ESD・ユネスコスクールの普及・推進のための基礎的研究」『広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書』第12巻、pp.241-250、2014年